

新刊紹介



新設 コンクリート革命

著者：熱血ドボ研2030
 (大学の有識者、建設会社や道路会社の
 技術者などで構成する有志の勉強会)
 編集：岩城一郎・石田哲也・細田暁、
 日経コンストラクション
 発行：(株)日経BP社
 仕様：A5判、296ページ
 定価：3,400円(税別)

2011年発生の東日本大震災の大津波を受けて、従来の方法にとられず、品質と耐久性にこだわったコンクリートを造ろうと提唱し、実践してきたのが本書である。

ご存じのとおり、東北地方では莫大なコンクリート構造物を造らざるをえなくなった。しかし、一時期に大量のコンクリート構造物を建設するにあたり大きな課題が浮かび上がってきた。その一つが、骨材に起因するアルカリシリカ反応である。東北地方は寒冷地域で、凍結防止剤として塩化ナトリウムを大量に散布することから、コンクリート構造物の塩害や凍害が顕在化し、建設後30年程度でリニューアルに至るものが後を絶たなかった。このまま従来の方法で造っていても、復興後、早期に劣化することは目に見えていた。そこで「良いコンクリート構造物を造る」ためにはこれまでの概念や方法を見直し、行動を起こそうと考えたこの本の著者グループ「熱血ドボ研2030」の一部メンバーが東北地方整備局の発注担当者を説得した。東北地方整備局ではこれを受け、当時先進的な取組みと

して評価が上がっていた山口県の施工事例をもとに、新しい品質確保、高耐久化を復興道路で実証しながら進めており、その動きは各地に広がりつつあるという。これはまさに革命であろう。

土木学会のコンクリート標準仕方は、どうすれば良いコンクリートが打てるかを書いている教科書的なもので、それだけにはかなり分厚い。そのため読めば勉強になるのはもちろんだが、現場には即応していないのではないだろうか。

本書では、コンクリートの品質の確保・高耐久化の方法やノウハウ、またその背景にある考え方などがまとめられているので、一読の価値があるのではないと思う。

【目次】

- 第1部 今こそ新設にこだわりを！
- 第2部 東北・山口から上がる
革命ののろし
- 第3部 トップエンジニアが語る
コンクリートの「最先端」
- 第4部 2030年に向けて、革命の先は？